



日本の伝統は
言葉の壁を越えて感動を与える

人形浄瑠璃 富田人形共遊団 団長
阿部 秀彦さん (富田町)

撮影場所・富田人形会館

「小さい頃は、ただ父親の公演について旅するのが嬉しかったです。幼いころから父親が人形を操る姿を見てきた阿部さん。各地への公演に同行するうちに人形遣いも手伝うようになり、次第に太夫の声や太三味線の音が自然と身体に染み付いていったといいます。「置いてあるとただの人形ですが、ひとたび人形遣いの手にかかると、血が通い、命が吹き込まれたように動き出します」。人形浄瑠璃の奥深さに惚れ込んだ阿部さんは、熱っぽく語ります。

富田人形は、天保6年(1835年)ごろ、阿波(徳島県)の人形芝居の一座がもたらした人形で芝居の稽古を始めたのが発祥で、郷土が誇る民俗芸能として代々

受け継がれてきましたが、やがて高齢化で人形遣いが減少。一時は休眠状態でしたが、阿部さんが自治会長を務めたのを機に「誇れるものをみんなでやろう」と提案。昭和54年に「富田人形共遊団」として再興しました。

3人で1体の人形を操る富田人形は、稽古や本番を重ねるごとに絆が深まっていくのも大きな魅力。「お互いを思いやり、息を合わせないと人形はいきいきと動かない」とチームワークを何より大切にしています。

今では、海外公演を含め年間およそ30公演、富田人形を学ぶ留学生の受け入れも毎年行うなど、活動は世界へ。アメリカ公演では、舞台が終わると場内は総立

ち。アメリカ人が涙を流しているのを見て、言葉の壁を越えて伝わる芝居ができた実感したそうです。「人形の繊細な手の動きに興味を持った9歳の少女は、実際に人形に触れて「重い」と言いましたが、実は人形の重さではなく、日本の伝統や文化の深さを「重い」と表現したそうなんです」と、嬉しいエピソードも。

稽古を積み重ね、今では14の演目を持つ共遊団ですが、阿部さんの思いは止まりません。「いまは同じ演目を繰り返しているだけ。今後は若い人形遣いを育て、新しい演目に挑戦したい」。

伝統を守るだけでなく、育て、さらに高みを目指す。阿部さんの瞳には、先祖が守ってきた伝統の灯が映っています。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課 (☎65-6504) まで申込みください。



歌とおどりが大好きな**いっくん!**
いつもみんなに笑顔をくれてありがとう。
たくさん遊んですくすく育ってね。

岸本 **いっくん**
樹ちゃん (平成26年9月生まれ)
(大茂亥町)



かわいい**紫彩ちゃん♡**
元気いっぱい大きくなーれ!!
いつもありがとう♡

中寺 **しん**
紫彩ちゃん (平成26年1月生まれ)
(榎木町)

まちの人口	平成28年6月1日現在	人口 120,484人	男 58,902人	女 61,582人	世帯数 44,857世帯
	平成28年5月中の異動	転入 223人	転出 217人	出生 81人	死亡 97人 婚姻 47件